

英 語（リスニング）

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の「英語」にリスニングが導入されてから、9年目を迎える。平成26年度センター試験におけるリスニングテストの受験者は、本試験が519,172人（昨年度は529,440人）で、受験者全体の約97.6%（昨年度は97.5%）にあたる。このことは、本テストの実施そのものや、問題の質・難易度、使用される言語材料等が、センター試験の受験者のみならず、全国の高等学校関係者及び英語教育関係者など、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。

平成26年度センター試験「英語（リスニング）」の追・再試験について主に検討・評価した項目は、内容・範囲、分量・程度、表現・形式等についてである。また、評価の視点として、以下の6つの事項をよりどころとした。

- (1) 現行の高等学校学習指導要領「外国語」
- (2) 平成26年度センター試験出題教科・科目の出題方法等
『英語』は、「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」に加えて、「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項を出題範囲とする。
- (3) 「オーラル・コミュニケーションⅠ」、「英語Ⅰ」、「オーラル・コミュニケーションⅡ」及び「英語Ⅱ」の教科用図書
- (4) 平成26年度大学入試センター試験「英語（リスニング）」（本試験）
- (5) 平成25年度大学入試センター試験「英語（リスニング）」（追・再試験）
- (6) 平成25年度大学入試センター試験問題評価委員会報告書（追・再試験）

2 内 容・範 囲

(1) 第1問

男女2人による27語から31語の短い対話を聞いて、問いの答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。対話はA－B－A－B形式が5問、A－B－A－B－A形式が1問出題された。選択肢については、6問中2問がイラストや図表、3問は曜日や数字を使って示されていた。新たに選択肢が文で示されている設問が1問出題された。

問題は計算を伴うもの、曜日や物の特徴を問うもの、道案内などがあったが、これらは特に「オーラル・コミュニケーションⅠ」などで頻出の内容であり、受験者にとってなじみのあるものであると考えられる。

(2) 第2問

男女2人による23語から30語の短い対話を聞いて、最後の発言に対する相手の応答として最も適切なものを選ぶ問題である。昨年度と同様、対話はすべてA－B－A形式であった。

本問は、短い対話から全体の内容を正確に聞き取り、それをふまえて次の発言を予測する点に

において、リスニングテストでありながら、論理性や推測力も試される問題形式である。日常の場面に即している問題が多く、状況がバラエティーに富んでいる点は、受験者にとっての親しみやすさや教育現場への波及効果の面から評価できる。

(3) 第3問 **A**

男女2人による50語前後の対話を聞いて、問いの答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。昨年度より会話のやりとりの回数が減少し、A－B－A－B－A－Bの形式が1問、A－B－A－B－Aの形式が1問、A－B－A－Bの形式が1問出題された。

対話全体から正答を導くようになっているとともに、音声には出てこない表現を用いて正答が作られている。また、発言の趣旨を汲み取る問題もあり、コミュニケーション能力を問う問題として良問だったと評価できる。

(4) 第3問 **B**

男女2人による148語の対話を聞いて、図表中にある3つの空所に入るものを、6つの選択肢から選ぶ問題である。姉と弟がどのパソコン周辺機器を購入するか、広告を見ながら検討している場面である。表中に空所があることで、聞き取る情報が何であるかが明確に示されている。数字や比較表現等を正確に聞き取り、それらの情報を整理する能力が問われている。自分が必要とする情報を聞き取るということは、実生活においても重要なスキルであり、評価できる。

(5) 第4問 **A**

1問につき100語程度のモノローグを聞いて、問いの答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。内容は、ブータンの男性の民族衣装について、買い物袋に食料品等を詰める方法について、北アメリカに最初に到達した人々についてであった。ある程度分量のある情報を整理しながら聞く能力が要求されている。多様な内容を扱った問題であり、授業でも様々な場面・状況に関するリスニング能力の育成を促すという波及効果が期待できる。

3問全てが説明文であったが、1問は昨年に引き続き物事の手順や方法に関する問題であった。2問は音声には出てこない表現を用いて正答が作られており、工夫が凝らされている。

(6) 第4問 **B**

207語のモノローグを聞いて、問いの答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。問題は、the Caldecott Medalという児童書に与えられる賞についてであった。昨年度同様、今年度の問題も説明文であったが、話題や使用されている単語・表現は標準的なものであった。読み上げられる文章の情報量が多く、音声には出てこない表現を用いて質問文と選択肢が作られているものもあった。

3 分量・程度

(1) スクリプトの語数

(() 内は本試験のもの)

大 問	設問ごとのスクリプト語数						平均語数	最大語数差
第 1 問	No. 1	29 (27)	No. 2	31 (29)	No. 3	27 (27)	29.8 語 (28.3 語)	4 語 (4 語)
	No. 4	31 (31)	No. 5	31 (30)	No. 6	30 (29)		
第 2 問	No. 7	23 (16)	No. 8	25 (28)	No. 9	25 (26)	27.0 語 (26.1 語)	7 語 (13 語)
	No. 10	27 (26)	No. 11	29 (27)	No. 12	29 (20)		
	No. 13	27 (28)						
第 3 問 A	No. 14	49 (49)	No. 15	47 (50)	No. 16	44 (50)	46.7 語 (49.7 語)	5 語 (1 語)
第 3 問 B	No. 17 - 19		148 (143)					
第 4 問 A	No. 20	96 (93)	No. 21	99 (97)	No. 22	105 (99)	100.0 語 (96.3 語)	9 語 (6 語)
第 4 問 B	No. 23 - 25		207 (202)					

スクリプトの語数については、本試験より若干の増加はあったものの、各設問の趣旨・目的に即した概ね適切な分量であった。

(2) 質問文の語数

(() 内は本試験のもの)

大 問	小 問	質問語数	小 問	質問語数	小 問	質問語数	小 問	質問語数
第 1 問	No. 1	6 (6)	No. 2	8 (6)	No. 3	7 (5)	No. 4	9 (13)
	No. 5	6 (13)	No. 6	5 (10)				
第 2 問	No. 7		No. 8		No. 9		No. 10	
	No. 11		No. 12		No. 13			
第 3 問 A	No. 14	8 (9)	No. 15	7 (10)	No. 16	8 (6)		
第 3 問 B	No. 17	(図表)	No. 18	(図表)	No. 19	(図表)		
第 4 問 A	No. 20	7 (10)	No. 21	12 (11)	No. 22	13 (8)		
第 4 問 B	No. 23	11 (6)	No. 24	12 (12)	No. 25	6 (13)		

センター試験のリスニングでは、第 2 問を除き、質問文が問題用紙に印刷されている。そのため、下記(3)の選択肢の語数と合わせ、その分量はリスニングテストとしての妥当性を考える上で 1 つの視点になる。10 語以上の質問文が 4 問あるが、おおよそ標準的な語彙を用いてある。

(3) 選択肢の語数

(() 内は本試験のもの)

大 問	小 問	選択肢の語数				小 問	選択肢の語数				大問ごとの平均語数
		①	②	③	④		①	②	③	④	
第 1 問	No. 1	イラスト				No. 2	5	5	4	4	
	No. 3	曜日				No. 4	数字				
	No. 5	数字				No. 6	イラスト				
第 2 問	No. 7	5	5	4	5	No. 8	4	4	4	4	5.3 語 (4.8 語)
	No. 9	5	5	6	6	No. 10	6	7	6	5	
	No. 11	4	5	7	4	No. 12	8	4	7	4	
	No. 13	7	6	5	6						
第 3 問 A	No. 14	4	3	3	3	No. 15	8	5	8	4	5.3 語 (3.7 語)
	No. 16	6	6	7	7						
第 3 問 B	No. 17 - 19 ①～⑥の選択肢で、すべて数字										
第 4 問 A	No. 20	8	9	8	7	No. 21	2	2	2	2	5.5 語 (8.5 語)
	No. 22	7	7	6	6						
第 4 問 B	No. 23	6	7	5	5	No. 24	数字				5.4 語 (6.8 語)
	No. 25	5	5	5	5						

選択肢の平均語数を大問ごとに見ると、イラストや数字が使われている問題を含む第 1 問と、表の空所補充である第 3 問 B を除き、5.3 語から 5.5 語とほとんど同じであった。また、選択肢の語数が 10 語以上のものはなく、リスニングテストにおいてリーディングの負荷をかけ過ぎないように工夫がなされている。

(4) 問題の難易度

本試験の平均点は 33.16 点（得点率 66.32%）であり、昨年度の 31.45 点（得点率 62.90%）より 1.71 点、得点率は 3.42 上昇した。追・再試験は本試験と比較するとやや難易度が高く、昨年度の追・再試験と比較するとやや易化している。

(5) 各設問の内容及び難易度の評価

(注) 難易度については、難・標準・易の 3 段階とした。

第 1 問 (大問全体の難易度：標準)

問 1 ブーツの特徴を選ぶ問題である。almost bought に惑わされず、black と short を聞き取れば正答を選ぶことができる。(易)

問 2 財布の特徴を問う問題である。音声には出てきていない選択肢中の fat を、thick と lots of membership cards と結びつけることができれば正答できる。Barely という応答に戸惑った受験者もいたかもしれない。(標準)

問 3 卒業パーティーをいつ開くかを問う問題である。ケンが戻ってくる曜日と the day after he gets back から正答を導くことができる。日常生活の場面に即した良問である。(標準)

問 4 印刷枚数を問う問題である。男性が three more という表現で枚数の確認をしていると

理解した上で、48 students と plus five more という情報をまとめることがポイントである。
(易)

問5 お年玉の額を問う問題である。50,000 yen と 30,000 more than I got の部分を聞き取り、簡単な計算をする必要がある。Fifty thousand を fifteen thousand、また thirty thousand を thirteen thousand と聞き間違えた受験者がいたと思われる。質問文で the man に関しての問いであるとわかるが、音声のみではどちらの声が男性か判別しづらかった。(標準)

問6 喫茶店の場所を問う問題である。straight ahead と the second light 及び a block further down から正答を選ぶことができる。しかし、light を right と聞き間違えたり、down がどちらの方向を示しているのか戸惑ったりした受験者が多かっただろう。(難)

第2問 (大問全体の難易度：標準)

問7 アイスcreamのフレーバーを問われたときの応答を問う問題である。flavor という単語を聞き取ることができれば、自ずと正解を選ぶことができる。(易)

問8 プレゼンテーションの持ち時間を尋ねる問題である。音声の最後の How long に対する答えを選択する問題で、場面の設定や使用されている表現は日常的である。(易)

問9 テレビゲームをしている娘に父親が注意をする場面である。会話全体から状況を把握して、場面に適した応答を選ばなければならない良問である。また正答に至るには、すべての選択肢を吟味する必要がある。(標準)

問10 男性が、報告書のファイルを誤って消去してしまった女性に声をかける場面である。I'm sure 以下の部分が、男性のアドバイスであると気づくことが求められる。受験者が将来経験するであろう実践的な場面設定である。(標準)

問11 娘が靴を買うために父親におねだりをしている場面である。最後の一文で、娘が仮定法を用いて間接的にお願いしているということを理解する必要がある。仮定法という文法事項が実際のコミュニケーションの場で使用されるよい例であり、教育現場への波及効果が期待できる良問である。(標準)

問12 授業中教師の指示を聞き逃した生徒が、隣の生徒に何をすべきか尋ねる場面である。受験者になじみのある場面設定であるので、状況をつかみやすかったと思われる。最後の Which part という表現を正しく理解することができれば、正答を導くことができる。(標準)

問13 男性が留守中にペットのイグアナの世話をしてくれないかと女性に頼む場面である。最後の Well... という発言から女性が乗り気でないと理解できれば、次の男性の応答につなげることができる。しかし、最後の発言で女性が言いよどんでいるので、その続きの女性の発言を選んでしまった受験者が多かったかもしれない。(標準)

第3問A (大問全体の難易度：標準)

問14 女性が男性を映画に誘おうとしている会話である。horror, Scary という語からホラー映画だと特定できる。選択肢の文は短くわかりやすいが、音声の I'm afraid という表現と選択肢の frightening を結びつける必要がある。(標準)

問15 授業に遅刻した生徒が教師に言い訳をしている場面である。受験者は教師の最後の発言から生徒の言っている遅刻の理由が本当ではないだろうと類推しなければならない。I wasn't born yesterday. という表現に戸惑った受験者がいただろう。(標準)

問16 男性が女性にテニスとヨガのレッスンについて感想を述べている場面である。男性の Don't ask. I did terribly! から両方とも上手くいかなかったということ、また tennis was easier からどちらかと言えばテニスの方が簡単だったと理解する必要がある。男性がテニスとヨガの比較に2度言及しているために、要旨をつかみ損なった受験者が多かったであろう。(難)

第3問B (大問全体の難易度：易)

問17 I could get the 40-dollar one から正答を導き出すことができる。one が hard disk を指すことも理解する必要がある。(標準)

問18 a wireless keyboard と 45 dollars から容易に正答できる。さらに、次の女性の 15 dollars cheaper から確認することができる。(易)

問19 15 dollars left over for this web camera と直接言っているので分かりやすい。(易)

第4問A (大問全体の難易度：標準)

問20 ブータンにおける男性の民族衣装についての説明文である。衣装について詳しく聞き取る必要があり、それらの情報を総合して restrictions on designs and colors という表現にまとめる力が求められる。使用されている語彙は平易なものではなく、またすべての選択肢を注意深く読む必要がある。受験者がリスニングテストを通じて新たな発見をし、異文化に対する視点を養うことができる良問である。(標準)

問21 買い物袋に食料品等を詰める方法についての説明文である。本試験と同じように、物事の手順や方法を聞き取る出題形式である。In the other bag から始まる長い1文を正確に理解する必要がある。質問文から聞き取るポイントを絞ることはできるが、詰めるものの位置関係や二つ目の袋の中に入る小袋の説明など情報量が多くかつ複雑で、それらを音声だけで正しく整理することは極めて難しい。(難)

問22 北アメリカに最初に到達した人々についての説明文である。However, some new evidence から始まる1文の Spain and France と、最後の文の by boat から正答を導くことができる。ただし、選択肢ではそれぞれ別の表現に言い換えられている。(標準)

第4問B (大問全体の難易度：標準)

問23 質問文・選択肢ともに、音声では出てこない単語が解答する上でのポイントとなっている。質問文の requirements が standards のことであると理解できず、音声のどの部分に注意すべきかわからない受験者がいたであろう。(標準)

問24 質問文の final candidates について音声では直接言及されていないので、問われている箇所を判別するのは難しかったと思われる。選考の流れを順を追って聞き取り、候補の数を特定する必要がある。(標準)

問25 説明の要旨を問う問題である。選択肢がよく工夫されているので、受験者はすべて注意深く検討する必要があった。枝葉の部分にとらわれず、全体の要旨を捉える力が求められており、教育現場への波及効果が期待できる良問である。(標準)

4 表現・形式

(1) 設問形式・設問数・配点

大 問	設問形式		設問数	配 点	
第1問	対話（短）：イラスト、数値等選択		6問	各2点	計12点
第2問	対話（短）：応答選択		7問	各2点	計14点
第3問	A	対話（中）：内容把握	3問	各2点	計12点
	B	対話（長）：図表完成	3問	各2点	
第4問	A	モノローグ（中）：内容把握	3問	各2点	計12点
	B	モノローグ（長）：内容把握	3問	各2点	
全 体			計25問		50点満点

設問形式、設問数及び配点はいずれも昨年度と同じであり、バランスのとれた問題構成になっている。

(2) 音声を聞く回数

すべての設問で英文を2回聞くことができるようになっている。実際のコミュニケーションの場面では1回しか聞くチャンスがないことも多いが、聞き返すことができるので、試験においては現状の2回聞きの継続が望ましい。

(3) 発話速度

実際のコミュニケーションで話される速度に近い発話速度であった。

(4) 質問形式

すべて5W1Hで始まる質問で、適切な形式であったと考えられる。事前に聞き取るポイントが把握しやすい問題が多く、受験者に対する配慮がなされていた。

5 要 約

(1) 評価の総括

① 範囲

高等学校学習指導要領及び教科用図書に基づいており、高等学校段階における「聞く」の領域を中心とした学習の成果を問うものとして、概ね適切であった。

② 内容

日常生活に関する身近な事柄を扱ったものが多く、話題で受験者が戸惑うことは少なかったと思われる。音声と選択肢の内容が言い換えられている等、思考力を問う問題も含まれており、非常に工夫が凝らされている。

③ 分量・程度

〔英文量〕 短い対話文から長文のモノローグに至るまで設問によって長短があるが、各設問の趣旨・目的に即した概ね適切な分量であった。

〔選択肢〕 平均語数は第2問が5.3語、第3問Aが5.3語、第4問Aが5.5語、第4問Bが5.4語となっており、語数を抑える工夫がなされている。

〔難易度〕 本試験と比べてやや難易度が高い設定になっている。昨年度の追・再試験と比較するとやや易化している。

④ 表現・形式

〔設問形式〕 バランスのとれた問題構成になっている。

〔発話速度〕 高等学校におけるリスニング指導の実態を考慮した、概ね適切な発話速度であったと思われる。

〔解答時間〕 設問に応じて、適切な解答時間が与えられている。

〔質問形式〕 すべてが5 W 1 Hで始まる質問で、適切な形式である。

(2) 意見・要望・提案等

① 英文量について

今回の試験は、いずれの設問も適切な分量であったと考えられるが、試験時間の制約上これ以上増えることのないように今後も配慮していただきたい。

② 問題の構成について

・第2問については、短い中で即座に状況をつかまなくてはならないので、引き続き自然な会話の流れで、かつ受験者の実体験に即した内容であるよう配慮していただきたい。

・第4問については、文章量の多い英文を聞くことになるので、文の構造・語彙・パラグラフ構成に配慮いただき、引き続き質問が主要内容に関するものであるようにしていただきたい。

・同一大問内で、難易度の違う問題をバランスよく配していただきたい。

③ 今後とも、日常で使われる自然な表現、受験者が将来経験するであろう実践的場面を取り入れていただきたい。その際、高校の授業で扱う表現・場面からかけ離れ過ぎないようにご配慮いただきたい。